

現場訪問 ●東京明販(株)

参加体験型の安全運転研修によって
新入社員の経験不足を補い、
事故防止につなげる

東京明販(株)は明治乳業グループの会社で、関東・甲信越地域において牛乳・乳製品を中心に扱う食品専門卸売の企業である。同社では昨年、交通安全センターレインボー埼玉(以下、レインボー埼玉)で新入社員を対象にした安全運転研修を開始。今年4月6日に開催した。



車庫入れや縦列駐車のコツをインストラクターから聞き、繰り返し練習する東京明販(株)の新入社員



「最近に入社直前での運転免許取得や、運転免許を持っていてもペーパードライバーであるケースが多くなっています。そのため、参加体験型の研修は新入社員の経験不足を補う意味でも重要です。」

「私が赴任した3年前まで、安全運転研修は行われていませんでした。当時、事故が発生した場合、報告書は提出されるものの、それが活かされていませんでした。そこで、まず報告書を分析し、社員の事故実態を把握することにしたので」と関根さんは振り返る。

「私が赴任した3年前まで、安全運転研修は行われていませんでした。当時、事故が発生した場合、報告書は提出されるものの、それが活かされていませんでした。そこで、まず報告書を分析し、社員の事故実態を把握することにしたので」と関根さんは振り返る。



東京明販(株)専務取締役・関根信敏さん



運行前点検は事故防止のために重要であることを学ぶ



安全運転研修では、すべりやすい路面でのABS(アンチロック・ブレーキシステム)体験なども行われた

TOPICS

1 工業団地の企業が一体となって取り組む
親子への交通安全啓発活動



合志技研工業(株)と(株)ホンダロジスティクスのインストラクターたちが子どもにもわかりやすく指導

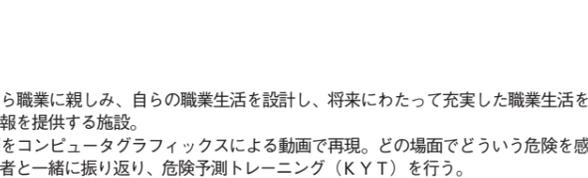
3月21日、「第1回蓬原地区親子交通安全教室」(主催:蓬原工業団地工業会)が(株)ホンダロジスティクス熊本事業所(熊本県合志市)で開催された。蓬原工業団地工業会は合志技研工業(株)、(株)ホンダロジスティクス、(株)スチールセンター、(株)中井商店、九州精鍛(株)で構成。この交通安全教室は各社に勤務している従業員の家族および周辺に住む親子を対象としており、この日は140名の親子が参加した。

交通安全教室の最初は人形を使って飛び出し事故を再現。40km/hで走るクルマの前方に人形が壁のカゲから飛び出す。ドライバーは人形を発見してから急ブレーキをかけるが間に合わず、人形と衝突してしまう。「クルマは急に止まらない」ということを理解してもらったための実験である。この他、自転車が左折するトラックに巻き込まれるという事故を再現。また、親がクルマの運転席に座り、子どもにクルマの周囲に立ってもらい、運転席から見えない範囲をビニールテープで示す実験なども行われた。

合志技研工業(株)と(株)ホンダロジスティクスは昨年、それぞれ従業員2名を安全運転指導に関する知識を身につけたホンダパートナーシップインストラクター(以下、インストラクター)として養成。交通安全教室はこのインストラクター4名が講師役となって進められた。

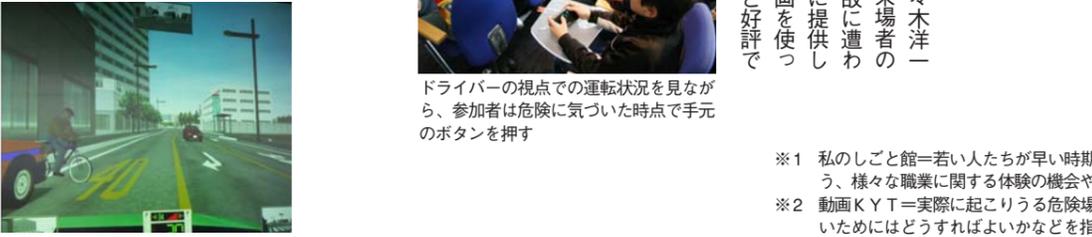


交差点では左折しようとするクルマのそばには近づかないようインストラクターがアドバイス



大津警察署の協力により、パトカーの試乗なども行われた

3月20・22日の3日間、私のしごと館(京都府相楽郡精華町)でイベント「危険予測トレーニング」が開催された。これは、ホンダが開発した動画KYTを使って参加者自身に危険予測能力をチェックしてもらい、日頃の交通安全に活かしてもらおうというもの。対象は小学1年生以上で、参加者は小学生とその保護者が中心であった。講師は鈴鹿サーキット交通安全センターの橋田克己インストラクターが務めた。



ドライバーの視点での運転状況を見ながら、参加者は危険に気づいた時点で手元のボタンを押す

※1 私のしごと館=若い人たちが早い時期から職業に親しみ、自らの職業生活を設計し、将来にわたって充実した職業生活を過ごすことができるよう、様々な職業に関する体験の機会や情報を提供する施設。
※2 動画KYT=実際に起こりうる危険場面をコンピュータグラフィックスによる動画で再現。どの場面でもどのような危険を感じたか、危険を招かないためにはどうすればよいかなどを指導者と一緒に振り返り、危険予測トレーニング(KYT)を行う。